

現代の家族に贈る

ラジオ番組「金子耕式のファミリー・トーク」その①



「金子耕式のファミリー・トーク」を多くの方が聞いてくださっているそうですね。特に、北海道で聴取率が高いそうですが、どのくらいの方が聞かれているのでしょうか。

金子 自身身びっくりさせられていますが、ビデオリサーチという民間の視聴率や聴取率を調査する団体によると、北海道ではこの5、6年、すべての民放ラジオ局、ラジオ番組の中で聴取率1位を続けているということなんです。ラジオはテレビの視聴率×3で同じような率に値するということです。私の番組は5%くらいで、40代よりも上の女性たちにいたっては9.8%。これは視聴率30%ということになりますね。講演会に伺うと、聞いている人たちの数の多さに驚いてしまいます。

2016年には、講演会にどのくらいの方がみえましたか。

金子 主催者によって違ってきます。去年の夏、札幌中央区のPTA連合会では540人くらい。3年ほど前の夕張では、650人。また、地方の学校などで呼ばれる時は30人くらいです。

ラジオ番組が始まったきっかけは何ですか。

金子 私たちファミリー・フォーラム・ジャパン（旧ファミリー・フォーカス・ジャパン）（FJ）の発足が中でどうやって育てていったらいいのかと、感じていました。私は自分の考えで何かに言うということはとてもできません。でも聖書を読むと、何千年も前から神さまの知恵が私たちに教えています。それに基づいて語る事ができるわけです。しかし、聞いている方は一般の、聖書を読んだことのない人たちが多いです。いろいろなカルトの問題で宗教に対して偏見を持っている方もいるので、いきなり聖書はこう言っている、とは言えません。ただ、聖書が教える子育ての真理を土台として、現代の難しい問題にどう対処していったらよいかを語ることはできます。それは、人を愛するという立場で必要なことだと思えました。

私はいつも聖書のある個所を自分自身の心の拠り所としています。それは、ルカによる福音書10章25節〜37節、有名な良きサマリヤ人のたとえの箇所です。

現代の家庭、夫婦、傷ついたり子どもは、道端で傷ついて倒れ、瀕死の状態になっている人ではないかと思えます。子どもたちは、まともに育っていくことができない。心の中に愛を受けることができず、それがやがて怒りとなって犯罪につながったり、うつ病になったり……。こういう傷ついている人たちをケアしなくていいのだろうか、と思いました。まず、その人たちの必要を満たしてあげる。どうしたらいいか、たと

きく関わっています。

FJは1996年にスタートしましたが、当時この働きをよく理解して支援してくれるフォーカス・オン・ザ・ファミリーという団体がアメリカにありました。私たちと同じクリスチャンの団体で、家族・家庭を聖書の教えに基づいて教え、指導していく、児童発達心理学者のドブソン博士が設立した団体です。そこをコンタクトをとったことが、この事業の始まりでした。

ドブソン博士がロサンゼルスで始めたラジオ番組が、全米に広がり、スタッフが1500人の大きな団体（フォーカス・オン・ザ・ファミリー）に発展しました。博士の子育て、夫婦関係などの家族に焦点を当てた90秒の「Dr.ドブソンのファミリー・コラム」は世界130か国で放送されていました。実は、私自身大学を卒業して最初についた職業がラジオのアナウンサーでした。そういう経験もあって、「日本でもやってみよう」となりました。

最初はどの地域から始めたのですか。

金子 長野の信越放送（SBCラジオ）からスタートしました。ドブソン博士と似た声の声優さんを見つけて、私がナレーションなどをして番組を作りました。あいにく長野では聴取率調査が行われていませんでしたが、事務所にかかってくる電話や博士の本の申し込みなど、相対しいレスポンスだと実感しました。翌年から北海道と沖縄を始めました。その2か所は今も続いています。それから、岡山、岐阜、そして、東京でもやったことがあります。でも、私たちの番組は、ラジオ局の方から言われてやっているのではなく、こちらから番組を持って押しかけて行って、放送料金を払って続けてきました。最初のうちは、ドブソン博士の団体が放送料金を出してくださっていましたが、9・11以降アメリカの経済状況も

今、家庭は様々な問題を抱えています！  
すれ違う夫婦、増加する離婚率、子育て中の孤立と不安、塾と習い事に忙殺される子どもたち、青少年の性の問題、引きこもる若者と高齢化する親、老後の不安……

このような問題の解決にお役に立てればという思いから、ラジオ番組は始まりました。

今号から、そのラジオ番組「金子耕式のファミリー・トーク」がどのように広まっていったのかを、担当の金子へのインタビューの形でお伝えします。

不安定になり、支援がストップしました。それを機会に完全にそれまでの関係を見直して、名前もファミリー・フォーラム・ジャパンに変更し、番組も自分たちで作ることにしました。

それは何年前ですか。

金子 10年前の2006年です。「金子耕式のファミリー・トーク」という名前が私が引き継ぎました。放送を始めたら、同じ時間のこともあり、続けて聞いてくださる方が多くて、「なかなかいいじゃないか」となりました。それで半年たって、試しに札幌でリスナーに呼びかけて講演会をやってみました。そうしたら100人以上の人が会場に集まってくださいました。最初のうちは、私たちが企画してやっていたのですが、やがて学校、特に公立の学校や教育委員会から呼ばれるようになり、最近では里親会や幼稚園、保育園などいろいろなところから招かれています。今は1年間に70〜80回、講演会をしています。

放送で伝えたいことは、どういふううに考えていますか。

金子 私の番組が1位だと言いましたが、2位は北海道では直前に放送しているテレビジョン人生相談で、15分くらいの日本全国に流れている番組です。やはり中身は家族・家庭問題です。私の番組と違って、かなりどろどろしています。先生方が手厳しくしかりつけたりします。夫婦関係、子育て、ローンを抱えているなどの金銭トラブルで家庭が崩壊、といった話が多いわけですね。つまり、今、どれだけ多くの人が家族・家庭の問題を抱えているか、多くの家庭が崩壊しかけています。私自身も開始当時小さな子どもを育てていて、この世の

